

旅で知る 巴御前と静御前

清水 勝

「是より木曾路」の碑を見て、木曾川沿いに歩き、やがて宮ノ越宿に着く。この辺りは木曾義仲が育った地で、近くに義仲館がある。木曾川に架かる橋は巴橋。そこからは深くえぐられた濃い青色の水が渦を巻いている巴ヶ淵が見える。

巴御前はここで泳ぎ、武技の鍛錬をしたらしい。伝説によれば、この淵に住む龍神が義仲の養父 中原兼遠の娘として生まれ、巴御前に化身して義仲の愛妾となり、彼を守ったという。

巴御前は『平家物語』『源平盛衰記』に記されているものの、『吾妻鏡』には一切出てこない。どうやら軍記物語上の人物ということのようだ。義仲の悲運を見かねて作者が色浴いのために巴御前を登場させたのかもしれない。

曰く、

- ・ 女性の身でありながら強い武人で、美しい容姿だった
- ・ 死を覚悟した義仲と別れる際には敵将御田八郎師重を討ち取って戦場を去った（カッコいい！）
- ・ 木曾義高の母として、息子の命乞いに行き、頼朝に捕らえられる

- ・ 鎌倉幕府の要職にあった和田義盛の妻になり、朝比奈義秀を生んだ
- ・ 義盛の死後、出家し越中富山で過ごし九十一歳でこの世を去った等々。

作者が巴御前を創るヒントとした人物は、養父 中原兼遠の娘の輓絵ではないだろうか。幼少期に義仲（幼名 駒王丸）に武士の作法や武術指導をしたのが八歳上の輓絵であったことから推測してみた。

* * *

桜といえば吉野だ。その吉野を訪ねた時に、頼朝勢に追われた義経が静御前と共に吉野の吉水神社で五日間匿われたと知った。

五日間、義経は熟慮の上、静御前とこの地で別れることを決意し、京に戻るように命じ、金品と従者を与えた。

しかし、静御前は従者に金品と荷物を奪われ逃げられてしまい、山中でさまよっていたところを僧兵に捕らえられ、京を経由して鎌倉に送られた（『吾妻鏡』より）。

恐らく義経は大海人皇子（のちの天武天皇）が吉野に隠棲した後に、兄の天智天皇の子の大友皇子を倒して政権を握ったこと（壬申の乱）が頭を過つたに違いない。